

◆【海員組合・担当支部へようこそ】鹿児島支部の紹介

鹿児島支部は、国内部門と水産部門、合計55社の会社を担当しており、支部体制は、漢那太作九州関門地方支部長兼鹿児島支部長を筆頭に、執行部2人と事務職員1人です。

各離島を結ぶフェリーターミナルや、大隅半島と薩摩半島を結ぶ通称：垂水フェリーにほど近い、鹿児島市新栄町にあります。また、日本一活発な火山であり、毎日のように噴煙をあげる（鹿児島の方言で灰が降ることを「へが降った」と言います）鹿児島のシンボルともいえる桜島が良く見えます。

歴史を実感する街・鹿児島

鹿児島港の歴史を紹介しますと、鹿児島港は今から約200年前の江戸時代、薩摩藩が琉球との貿易が盛んになってきたことを受け、港を整備したのが始まりと言われています。特に、1549年、日本にキリスト教を普及させるため、宣教師「フランシスコ・ザビエル」が最初に到着したのが鹿児島であることは広く知られており、歴史的にも重要な港です。

また、雄大な桜島のごとく、明治維新に活躍した英傑を輩出した土地でもあり、鹿児島港近辺を散策すると、西郷隆盛の銅像をはじめ、明治維新にまつわる資料館など、その歴史を肌で感じることができます。

西郷隆盛銅像

西郷隆盛は鹿児島では一番有名な人物。この銅像の製作者は忠犬ハチ公も製作した鹿児島市出身の彫刻家・安藤照氏で、昭和12年に設置されました。銅像は台座も含め高さが8m。着用している軍服は陸軍大演習に行幸した明治天皇随行の際に着ていたものです。また、近くの南洲公園内には、西郷隆盛をはじめ明治維新の先覚者たちの偉業を伝える西郷南洲顕彰館があり、西南戦争の戦死者が埋葬された南洲墓地も隣接しており、西郷隆盛がまつられた南洲神社もあります。

下級武士であった西郷隆盛は、島津斉彬に見いだされ、明治維新の立役者として活躍しました。倒幕の大きな力となった薩長同盟や、江戸無血開城などを実現した、鹿児島の英雄といえます。

大名庭園「仙巖園」と近代化の拠点「集成館」

鹿児島の歴史を感じる見どころとして、仙巖園と集成館があり、仙巖園は島津家19代光久によって1658年に造られた薩摩藩主の別邸で、雄大な桜島を借景とする庭園や御殿など、大名家の暮らしを今に伝えています。

また、幕末の1851年、島津斉彬が藩主となって始まった集成館事業は、日本近代化の出发点となり、旧集成館機械工場や反射炉跡など、遺産群として残されています。

鹿児島を訪れて時間のある時には、ぜひ見学してほしい場所のひとつです。

海上物流の拠点＝鹿児島港

鹿児島港は、現在、日本で初めて青森県から秋田県にまたがる「白神山地」と一緒に世界自然遺産に登録された屋久島や、世界自然遺産登録を目指している奄美群島への定期旅客船ターミナル、離島への生活物資を輸送する貨物船、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在は入港する大型クルーズ客船はありませんが、大型クルーズ客船が接岸できるターミナルなど鹿児島の経済や生活を支える重要な拠点となっています。

鹿児島支部の現在の活動は1月8日から2月9日までの大衆討議期間に、各現場組合員から寄せられた要望・意見を集約し、現場の声を各部署委員会に届け、整理された事項に基づき、今次労働協約改定要求書を作成し、海員春闘に臨みます。

組合員の雇用確保と生活の安定を第一義に日々の執行活動をまい進してまいります。

鹿児島にお立ち寄りの際はお気軽にお越しください。

「海員だより」